



4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～ 第2回日本医療通訳学会学術集会報告 シンポジウム「医療通訳技能評価ルーブリックの開発」

押味貴之

国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター

日本医療通訳学会は「第2回学術集会」として、2023年10月1日9:00-10:30にシンポジウム「医療通訳技能評価ルーブリックの開発」をコラッセふくしまにて開催した。

「国際臨床医学会認定医療通訳士」の「試験合格者認定」の対象試験として3つの試験が認定されているが、その評価項目は統一されていない。本シンポジウムでは医療通訳教育における形成的評価において活用できる「医療通訳技能評価ルーブリック」を開発するべく、事前に「試験合格者認定」の認定団体にアンケートを実施し、各団体の代表者を招いて医療通訳技能評価の項目に関する同意形成を目的とする。ルーブリックとは学習目標の達成度を判断するため、【評価項目】と、観点の尺度を数段階に分けて文章で示した【評価の基準】から構成される評価票を意味する。

本シンポジウムに先立ち、「医療通訳育成カリキュラム基準」に基づいて作成された「医療通訳テキスト」の「6-4. 通訳パフォーマンスの評価（総合評価）」に定められている「通訳行為に関する評価の8項目、および「通訳者のコミュニケーションに関する評価」の7項目、合計15項目に関してGoogle Formでアンケートを実施した。アンケート対象は「国際臨床医学会認定医療通訳試験」を実施している一般財団法人日本医療教育財団、一般社団法人通訳品質評議会、一般社団法人日本医療通訳協会の3団体とした。

シンポジウムでは3団体を代表して下記の3名が医療通訳の実技評価とルーブリックに対する意見を解説した。

- 佐藤岳（一般財団法人日本医療教育財団）ビデオ発表
- 藤井ゆき子（一般社団法人通訳品質評議会）
- 高岡由美（一般社団法人日本医療通訳協会）

発表に引き続き、アンケートでも問われた下記の3項目について発表者から説明が行われた。

- 評価項目の評価方法
- カリキュラムの評価項目以外の評価項目
- 形成的評価として望ましい評価票

3つの試験実施団体からの回答により、「通訳行為に関する評価」の8項目、および「通訳者のコミュニケーションに関する評価」の「非言語コミュニケーション（話し方・態度）は適切である」と「適切なタイミングで通訳ができている」の2項目、合計10項目が評価対象となっていることが明らかになった。評価方法に関しては、各試験実施団体が独自の方法を選択しており、また異なる

方法と段階が用いられ、評価の柔軟性と包括性が確保されていることが明らかになった。医療通訳テキストの評価項目以外の項目としては言語能力の指標を用いることや理解・記憶・訳出などの通訳技術、服装・マナーや現場での対応力なども評価されている傾向にあった。またルーブリックに基づく評価が適切であるとの意見もある一方で、全ての評価項目に同等の重要度を置くことの問題点も指摘されている。特に医療通訳では、正確性や忠実性などの項目に重きを置く必要があるとされ、評価項目の設定と重要度の調整が今後の課題であると考えられる。

本シンポジウムの結果として、医療通訳育成医療通訳技能の評価において、医療通訳テキストに明記されている「通訳行為に関する評価」に関しては、3つの「国際臨床医学会認定医療通訳試験」全てにおいて評価対象となっていることが判明した。「通訳者のコミュニケーション行為に関する評価」に関しては、多様な視点での評価が必要なが示された。今後は医療通訳テキストの評価項目に加え、実際の医療現場での通訳者の役割を反映した評価基準の構築も重要であることが示唆された。